

「釰について」

文
劍恒光

協力
2ちゃんねる刃物板
mixi 刀を好むコミュ

釰について

釰（はばき）は金に祖と書く。

刀身を鞘（さや）に固定する役目をし、釰が有るために刀身は鞘の中で宙にういている状態で維持される。

白鞘（しらさや）・拵え（こしらえ）ともに釰を基本にして製作し、鐔等の各金具も釰に依存する。

そのため、日本刀の付属金具の中で、もっとも重要な役目を持つ。ハバキの形状は太刀釰・一重釰・二重釰に大別される。

釰の種類

太刀釰（たちはばき）

本来吞込（のみこみ）がなかったが、後に吞込があるものもある。吞込の無い釰を突掛釰（つっかけはばき）と呼ぶ。鎬（しのぎ）が立つのが特徴で、肉が薄い。

刀釰

一重釰（ひとえはばき）

一枚釰（いちまい）とも呼び、もっとも一般的な物である。

二重釰（ふたえ）

二枚釰（にまい）・覆輪釰（ふくりん）・袴釰（はかま）とも呼び主に装飾を狙って造る。現在一番注文が多い物ではないだろうか。また、上具に家紋等の透かし彫りをした物も多い。

鍔の素材

古い時代には刀工自身が鉄鍔（てつ）を製作したが、のちに専門の白銀師（しろがねし・鍔師）によって、素銅（すあか・純銅）、赤銅（しゃくどう）、銀、金などで製作される。

銅無垢鍔（どうむく）・銀無垢（ぎんむく）・金無垢（きんむく）
また装飾上から金・銀などの薄板で包んで有る鍔があり「着鍔（きせはばき）」と呼ぶ、

金着鍔（きんきせ）・銀地金着（ぎんじきんきせ）・銀着（ぎんきせ）
また金鍍金や金消し象嵌などメッキされた物も有る。

金色絵（きんいろえ）・金焼付（きんやきつけ）

武用としての鍔

実用の刀（武道とか軍用など）は銅無垢一重鍔が一番である。

銅は叩き締めると結構堅くなり変形しにくい（ただし、下手な白銀師が造るとキチンと叩き締められていない場合も有る）

それに比べ、銀、金は柔らかく刀を振るとすぐに変形し、ガタが来ます。
着せ鍔、二重鍔も変形しやすく、とっさの時に不覚をとる可能性が有ります。

江戸末期まで、一般の武士は銅無垢を使い、上級武士とて良くて銅地銀着、大名クラスでやっと銀地金着を使う。

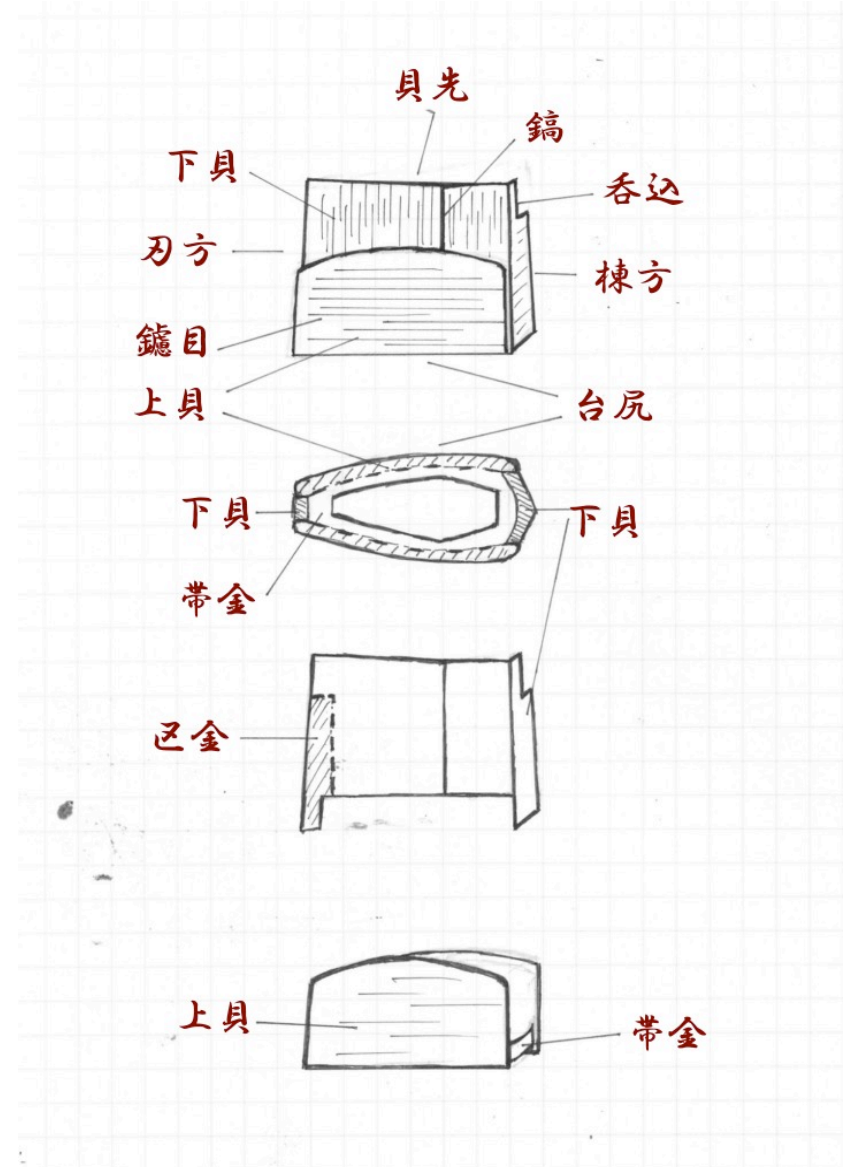
これは一つには礼節も関係してくるのですがね。

保存の観点からの鍔

白鞘で保管のみの刀は銀地金着二重鍔が最適であるとも言います。

銀は緑青を吹くことも無く、薄板の着せが鯉口（こいくち）との密着を増し、白鞘内を密閉して、刀身を酸化から防ぐそうです。

鍔各部名称



用語読み

上貝（うわがい）・下貝（したがい）・刃方（はかた）・棟方（むねかた）・
鎧（しのぎ）・鑢目（やすりめ）・台尻（だいじり）・区金（まちがね）・
帯金（おびがね・力金ちからがねとも呼ぶ）・貝先（かいさき）・吞込
（のみこみ）

悪い鍔

鍔は刃方と棟方の角、四点で留まる仕組みになっている物が良く、茎全体にぴったり着いている鍔は、脱着の際に茎の錆、鑢目（やすりめ）、鑿枕（たがねまくら）を削り取ってしまう事になります。

区金の形状が悪いもの、鑢付けの蟬がはみ出している物は刃区（はまち）を欠けさせる原因になります。

これらの鍔は刀と言う文化財の保存に非常に有害な鍔と言えます。

また一枚の地金より造らず、側面と棟方・刃方四枚の地金を張り合わせて有る鍔は実用の際、直に割れてしまう事になります。

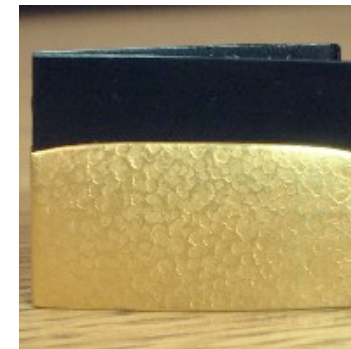
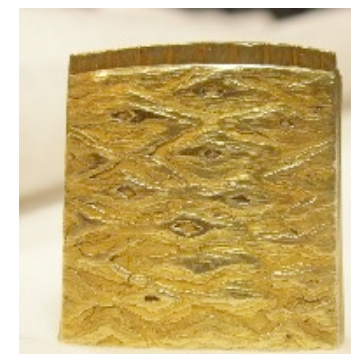
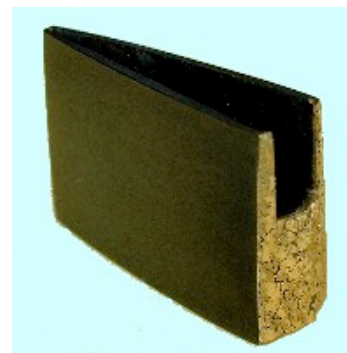
最後に

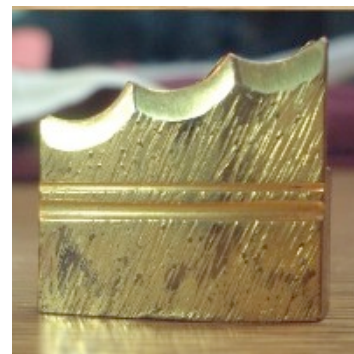
鍔は刀装の要であり、台尻の角度が全ての刀装に多いに影響します。また鍔の善し悪しは刀の保存上にも影響します。

刀に比べて決して高いものでは有りません。ケチらず良い職人に製作を依頼して下さい。

現在製作される鍔は二重鍔が多いですが、様々な個性あふれる鍔が古来より造られています。何点か挙げますので、製作依頼の参考にして下さい。

様々な鍔





7

劍恒光

8

劍恒光



